

事業報告書

【プロジェクト名】

骨転移医療の質向上を目指す地域連携強化事業

【活動の要旨】

がん診療の治療成績は近年著しく向上し、社会の受容や価値観の変容とともに社会復帰を果たす患者が増加している。そのため、治療と生活の両立を支える QOL（生活の質）重視の診療体制の整備が望まれている。年間 15 万人以上が罹患する骨転移は、疼痛や骨折により ADL（日常生活動作）や QOL を低下させる。こうした状態は、原発診療科の治療継続にも支障をきたし、患者の生きがいと治療意欲を損なう重大な課題である。がん診療を担う地域の中核病院や地域包括支援センターにおいては、骨転移患者に対して複雑な意思決定と適切なサポートが不可欠であるが、現場では対応にバラつきがあり、医療者間の知識格差や支援体制の不足が顕在化している。

私たちは、骨転移患者の QOL を維持・向上させるためには、整形外科的視点による運動器マネジメントが極めて重要であると考え、がん診療連携拠点病院に勤務する医療従事者を対象に、定期的なセミナー開催を通じて骨転移診療の知識の普及・共有を進めてきた。“骨転移難民”の解消を目指し、地域全体での骨転移管理の質的向上に努めてきた。しかしながら、これまでの活動は限られたリソースで運営されており、当院や名古屋市内の会場で現地参加形式のみでの開催に留まっていた。そのため、各地域における活動や地域医療機関・包括支援センターとの連携という点では、十分な展開がなされていなかった。

本申請を通じて、これまでの基盤を発展させ、各地域のがん診療連携拠点病院に対する実質的な関わりを深めることを目指したい。さらに、これまで培った教育プログラムの一環として、セミナーを Web 配信によるハイブリッド開催とすることで参加ハードルの低減を図り、職種を超えた幅広い医療者や患者が参加できるセミナー開催へ転換していく。がんロコモティブシンドロームの啓発活動とも連携することで、地域の骨転移患者の支援における実効性を高めていく予定である。

【連携した職種（所属）】

・名古屋大学医学部附属病院

整形外科医 3 名、リハビリテーション医 2 名、作業療法士 1 名、理学療法士 3 名、地域連携患者相談センターの医療ソーシャルワーカー 1 名

・名古屋医療センター

整形外科医 1 名、診療看護師 1 名

- ・がん診療連携拠点病院に従事する整形外科専攻医

【予定した活動】

がん診療に関連する医療従事者や医学生に対して、以下の活動を予定した。

1. 研究会やセミナーを通じた正しい知識の共有
2. 骨転移をわかりやすく概説したリーフレットの作成
3. 名古屋大学病院のキャンサーボードへの参加機会の提供
4. 地域病院でのキャンサーボードへの参加支援

【実績】

1. セミナー開催

2025年7月25日開催のセミナーは、Web配信と現地のハイブリット開催とすることで多くの参加者を得た。費用については、本助成で賄うには高額であったため他の運営費から拠出した。2026年3月27日に開催したセミナーには、がん診療連携拠点病院の腫瘍内科医、診療看護師、理学療法士など幅広い職種から参加があった。

- ・2025年7月25日「実践！チーム医療で挑む骨転移診療」参加44名
(整形外科専門医14名、整形外科専攻医3名、研修医1名、看護師2名、医学生2名、その他1名、Web参加者は21名で関東、長野県からの参加もあった。)
- ・2026年3月27日「実践！チーム医療で挑む骨転移診療」参加27名
(整形外科専門医12名、整形外科専攻医3名、リハビリテーション医2名、腫瘍内科医1名、研修医1名、看護師1名、医学生4名、理学療法士3名)

骨転移診療は医師だけでなく、理学療法士、看護師、薬剤師、ソーシャルワーカーなどチームでの対応が重要です。明日から実践できる骨転移診療のエッセンスを一緒に学びましょう！

実践！ チーム医療で挑む骨転移診療

2025 7/25 [金]

ハイブリット開催

WEB参加のご案内
事前登録をお願いします。
右のQRコードよりアクセスしてください。
URL: <https://forms.gle/kz135RkXWd58ojaA>

時間 19:00~20:30 会場 TKPガーデンシティ premium名古屋駅前 ホール3A
〒451-0045 愛知県名古屋市中区名駅1丁目1-17 ダイアメテツビル3階

レクチャー 1 19:00~19:30
骨転移診療におけるチームビルディング
講師 岡本 正則 先生
(愛州大学 医学部医学科運動機能学教室 准教授)

レクチャー 2 19:30~20:00
無理なく続けるがんロコモ診療
～医療者の働き方と患者 QOL の両立へ
講師 五木田 茶舞 先生
(地方独立行政法人地玉県立病院看護部地玉県立がんセンター 整形外科 科長兼診療部長)

症例相談 ~20:30
講演後に症例相談の時間を設けています。
普段の診療でお困りの骨転移症例がありましたら、ぜひご提示ください！
ベストな治療法を一緒に検討しましょう！

連絡先
名古屋大学医学部附属病院 整形外科
〒466-8505 名古屋市中区東区柳町65番地 ☎052-741-2111(内線)
FAX番号: 生研 生研1-mail: hokita.kunihiko@net.nagoya-u.ac.jp

骨転移診療は医師だけでなく、理学療法士、看護師、薬剤師、ソーシャルワーカーなどチームでの対応が重要です。明日から実践できる骨転移診療のエッセンスを一緒に学びましょう！

実践！ チーム医療で挑む骨転移診療

2026 3/27 [金]

現地開催のみ

時間 19:00~20:30 会場 JPタワー名古屋ホール&カンファレンスA1+2
〒450-6303 愛知県名古屋市中村区名駅一丁目1番1号 KITTE名古屋3階

レクチャー 1 19:00~19:30
いまさら聞けない転移性骨腫瘍
マネジメントのABC
講師 永野 昭仁 先生
(岐阜大学医学部整形外科 准教授)

レクチャー 2 19:30~20:00
転移性骨腫瘍に対する大腿骨近位置換術の
ビットフォール -手術とリハビリについて-
講師 田中 太晶 先生
(福井大学医学部医学科整形外科 講師)

症例相談 ~20:30
講演後に症例相談の時間を設けています。
普段の診療でお困りの骨転移症例がありましたら、ぜひご提示ください！
ベストな治療法を一緒に検討しましょう！

参加登録フォーム
<https://forms.gle/FgNev9qTK8iotq26>

連絡先
名古屋大学医学部附属病院 整形外科
〒466-8505 名古屋市中区東区柳町65番地 ☎052-741-2111(内線)
FAX番号: 生研 生研1-mail: hokita.kunihiko@net.nagoya-u.ac.jp

図1：開催した骨転移セミナーの案内状



図2：セミナー会場の風景

2. 骨転移に関するリーフレットの作成

本活動申請時点は、独自でリーフレットを作成する予定であった。しかし、活動を進めるうちに骨転移の病態と治療法が概説されているリーフレットを知ることができた。非営利目的で配布を許可されているため、外来で希望者に渡したり、QRコードを提示している。(図3)。



図3：かんたん！わかりやすい！骨転移診療ガイド

©柴田浩行, 八神星子, 2025, CC BY-NC-ND 4.0 「かんたん！わかりやすい！骨転移診療ガイド」はクリエイティブ・コモンズ 表示-非営利-改変禁止 4.0 ライセンス (<https://creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/4.0/>) の下に提供されています

3. 名古屋大学病院のキャンサーボードへの参加促進

2025年4月以降、他医療機関の若手整形外科医7名が参加した。参加についてアンケート調査を行い、骨転移カンファレンスの参加意義については「非常に意義があった」2名、「ある程度意義があった」5名、今後勤務する施設で骨転移カンファレンスが開催されている場合の参加意思について、「非常にそう思う」2名、「ある程度そう思う」5名であり、前向きな感想を得られた一方、当院の骨転移カンファレンス運用について改善、刷新が必要であることを実感できた。



図4：当院の骨転移カンファレンスの風景

4. 地域病院でのキャンサーボードへの参加支援

国立病院機構名古屋医療センター（名古屋市中区）の骨転移カンファレンス立ち上げに当院スタッフを派遣し協議に参画している。名古屋医療センターの当該スタッフは、我々が開催する骨転移セミナーに参加し、今後は当院の骨転移カンファレンスへのオブザーバー参加を予定している。

5. 若手整形外科医に対する骨転移の講義

2025年6月18日に若手整形外科25名に対して、骨転移診療に関して1時間の講義を行った。骨転移診療の実際と手術治療の適応について講義を行った。この講義では、骨転移に関する知識を包括的にレビューし、骨転移患者を地域の拠点病院で全人的に診療すべきことを啓蒙した。

6. がん診療連携拠点病院向けに開催された骨転移ワークショップにチームで参加

国立がん研究センターが主催するワークショップに、当院から整形外科医、リハビリテーション医、作業療法士、緩和ケア看護師でチームを作り、参加した。他の施設や主催者と協議、議論した結果、当院の骨転移カンファレンスで用いるフォーマットを作成し、運用をアップデートすることに繋がった。

【助成終了後の活動の展開】

骨転移セミナーを本助成に限らず資金を得ることで継続的におこなっていくことを責務とする。企業協賛に頼らない形式で、医療者主体の運用を基本とする。Web 配信によるハイブリット開催は参加者増加のために必要であり、医師以外の職種のスタッフの参加も促しやすい。配信にかかるコストが難点ではある。

名古屋大学病院の骨転移がんボードは、多診療科が参加して 2012 年より月 1 回、計 161 回開催してきており、今後も継続される。アンケートではチーム医療の重要性を認識できる点で参加を有意義と回答されている。これからも、整形外科に限らず、意欲のある若手医師、コメディカルだけでなく、院外の参加希望者の参加を募っていく。本活動を継続することで、広域で骨転移診療の重要性が認知され、地域の骨転移診療に寄与することを期待したい。また、当院の骨転移カンファレンスは名古屋市、および愛知県内の医療施設の見本となるものであり、がん診療について多職種でカンファレンスを開催することはがん診療連携拠点病院の認定要件にもなっている。

上記の 2 事業を中心として、整形外科骨軟部腫瘍グループの活動を広げていく際に培われた各病院とのネットワークや認知が強みになるはずである。将来的には、各自治体の地域包括支援センターとも協働する形で活動を展開できることを期待している。